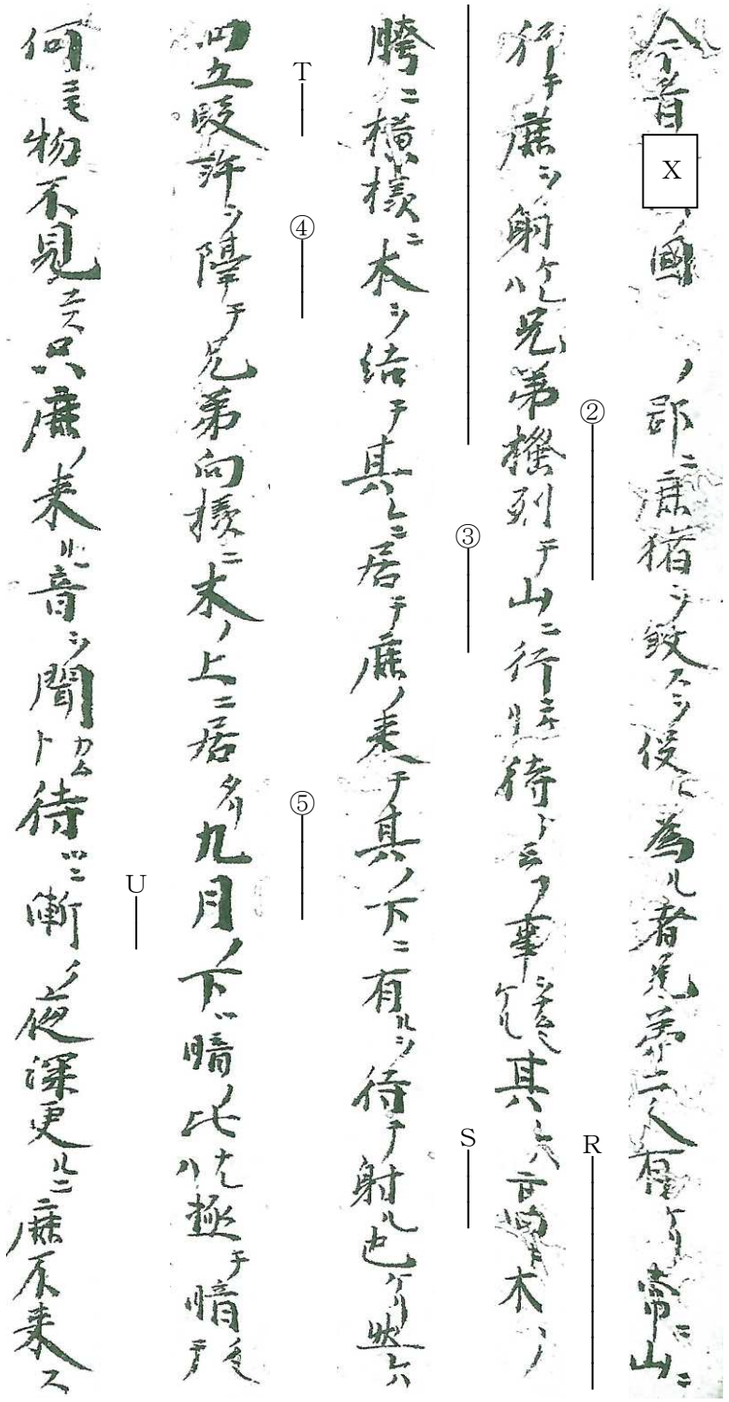
国語学講読Ⅱ春学期末試験問題（平成二八・七・二二）　　出題者　齋藤　平

つぎの文は『今昔物語集』巻二十七第二十三話の一節である。これについて後の設問に答えよ。
なお、解答はすべて解答用紙に記入すること。問題用紙は持ち帰ること。
七月二十九日（金）は答案を返却するので必ず出席すること。

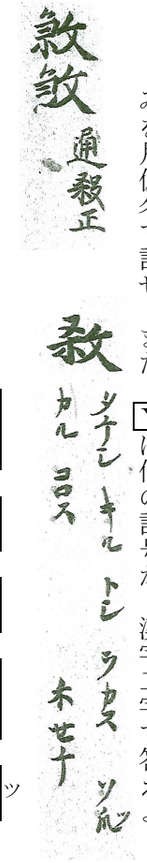


設　問

問一　空欄 X について、①これを何というか。②その目的（理由）は何か。

問二　傍線部①～⑤の読みを平仮名で記せ。

問三　傍線部Pに関連して、つぎの観智院本『類聚名義抄』の記事に掲出されている訓 ① ～ ⑦ に当てはまる読みを片仮名で記せ。また、 Y は何の記号か、漢字二字で答えよ。



殺　① ②　③　④ ⑤ ッ　⑥ ⑦　Y セチ

問四　傍線部Q「ケリ」を文法的に説明せよ。

問五　傍線部Rの状況を簡略な図で示せ。

問六　傍線部S「射る」はヤ行であるといわれるが、その根拠は何かを説明せよ。

問七　傍線部T「段」、傍線部U「漸」の音読みを反切から求め。○○○○の反で○○の形式で答えよ。